「萩」再発見

萩市教育委員会

「萩」を再発見していただくために

この小冊子を手に
萩の町を歩いてみませんか。

様々な季節、様々な時間帯に
萩の町の豊かな歴史文化と自然の中で
しばらく足を止めてみませんか。

何か新鮮な驚きが
あなたを待ちうけているかもしれません。

この小冊子は
長い年月を経て培われてきた
萩の町のたたずまいを紹介するためにまと
めました。

天然色の萩の町を
あるがままの萩の町を
あなた自身の心と体で感じ取ってみて下だ
さい。

１９９９年秋の日

萩市教育委員会

目　次

萩の町について …… 3
景観要素の説明 …… 4
景観要素の分布図 …… 7
旧城下町道路呼称図 …… 11
景観の紹介 …… 13
三角州概観 …… 15
堀内地区 …… 23
平安古町・河添地区 …… 33
浜崎町・北古萩町 …… 39
今魚店町・樽屋町・春若町・恵美須町・塩屋町 …… 45
呉服町・瓦町・南古萩町 …… 49
熊谷町・東田町・西田町・米屋町・
今古萩町・下五間町・吉田町・古萩町 …… 53
江向地区・橋本町・御許町 …… 61
土原地区 …… 67
川島地区 …… 71
藍場川・新堀川 …… 75

萩の町について

萩の町は、阿武川河口の三角州の上に形成されています。江戸時代には、毛利氏三十六万九千石の城下町でした。

毛利氏の居城である萩城と、それに伴う町（武家屋敷や町屋や寺社）が築かれ始めたのは、慶長９年（1604）のこととされます。以来、文久３年（1863）に藩庁が山口に移されるまでの間、萩の町は防長（周防と長門）二国の藩府として栄えました。その後、明治維新の激動を経て、大規模な開発や戦災を受けることなく、山口県日本海側の一地方都市として今日に至っています。

萩の町では、現在でも江戸時代の絵図をそのまま地図として利用できます。そのことは、江戸時代に形作られた町が、現在に継承されているということを意味します。町割りや街路だけではありません。かつて城下町を構成していた伝統的な建物（武家屋敷、町屋、寺社など）が、数多く、しかも連続して存在しています。それらの建物や、土塀や堀などの工作物、屋敷地の樹木等々によって形作られる町のたたずまいは、大変に特徴のある、そして魅力的なものとなっています。

また萩の町には、数多くの指定文化財も点在しています。まるで大きな博物館の展示室の中にいるように、町中いたる所で、本物の歴史遺産や豊かな自然に直接触れることができます。このことも、萩の町の大きな魅力となっています。

■景観要素の説明

萩の町の特徴ある景観は、様々な要素によって形作られています。その要素ついて、以下で説明します。これらの要素がどのように分布しているかを示したものが、後に掲載する「景観要素分布図」です。

屋敷型建造物

土塀や生け垣などで囲まれた敷地の中に建つ建造物。武家屋敷や農家はこれにあたる。

屋敷地の出入り口に腕木門、長屋、長屋門などを設けることが多い。

町屋型建造物

街路に沿って、隣家と接しながら連続して建ち並ぶ建造物。住宅の他に、商売を行う規模の大きい建物もある。

一般的に、間口（街路に面した家の幅）に対し、奥行（家屋前面から裏までの隔たり）が深い。また平入り（屋根の棟に平行な側面から出入りする）の建物が多い。

寺社型建造物

寺院や神社にかかわる建造物。山門や塀、鳥居や玉垣などで画された比較的広い敷地に建つ。周囲に墓地や樹林を有することが多い。

洋風建造物

建築後50年以上を経た西洋風建築様式を取り入れた建造物。

長屋門・長屋・門

屋敷地への出入り口には門が設けられることが多い。武家屋敷地の場合、一部に江戸時代に設けられた長屋門や長屋が残っている。数多く見られるのは腕木門で、屋根に起り（むくり、鞍状の勾配）を持たせたものもある。

墓　地

多くの寺院が、周辺に広大な墓地を持つ。塀や石垣で囲まれた墓地には様々な形の墓が立ち並ぶ。北古萩町辺りでは、墓地越しに隣の寺院の棟の高い大屋根が見える。

庭園・夏蜜柑畑・樹林地

屋敷地には庭園が設けられることが多い。花木等の植物が植えられ緑地となっている。塀越しに手入れされた庭木を見ることができる。

武家屋敷地は、明治時代に建物が解体され、畑地として夏蜜柑が栽培されるようになった。夏蜜柑栽培面積は、一時に比べ随分と少なくなっている。

寺社の境内や史跡地では、松などの樹林を見ることができる。

水　面

海、川、水路、堀、池などがこれにあたる。

土　塀

土塀は、屋敷地の周囲に巡らし境界とする土の塀。漆喰仕上げの土塀、漆喰が剥離した、または漆喰を塗らない荒壁の土塀、さらに表面の壁土が剥離し内部の瓦などが見える土塀などがある。

石塀・石垣・基礎石

石塀は、屋敷地の周囲に巡らして境界とする石の塀。切石を積んだ石塀や、建物の基礎石や敷地内の岩石を積んだ石塀がある。

石垣は、城郭、堀や川の護岸などに見られる。建物や工作物が解体されたままになっている場合、その基礎石も景観の一部として目にされる。

白っぽく大きい花崗岩は、築城当時に用いられたとされる。

板　塀

板塀は、屋敷地の境界に巡らして境界とする板の塀で、幾つかの種類が見られる。板のみの簡便なものから、塀の下部を板張り、上部を漆喰壁とし、頂きに屋根を設けたものなどがある。

生け垣

生け垣は、屋敷地の周囲に巡らしたり、屋敷地内の庭などを画したりする樹木の垣根。マキ（方言でヒトツバ）、イスノキなどが多く用いられる。夏蜜柑畑の周囲に防風林として設けられた高い生け垣もある。

樹　木

海辺や河岸端の松、塀越しの庭木などがこれにあたる。樹齢を重ねた大木も少なくない。歴史的景観に寄与するものが多い。

石　橋

水路に渡した石材の橋で、藍場川や新堀川沿いに多く見られる。通りと建物の間の側溝に渡した蓋状の石橋も見られる。

景観要素の分布図

旧城下町道路呼称図

旧萩城下町道路呼称図

（「萩図誌」城下町道路呼称図〈近藤隆彦作成〉より）

景観の紹介

三角州外観

（　）内のローマ字と数字は
写真の撮影位置を示します。

笠山山頂からの眺望

萩の町は周囲を山と海に囲まれている。
写真右手の円錐状の山が指月山。

（F－4）

鶴江の台からの眺望

手前の浜崎から指月山まで、菊ケ浜の砂浜と松林が続く。

（F－9）

田床山からの眺望

阿武川三角州の全域を眼下に眺めることができる。

（K－14）

田床山からの眺望

三角州の南半分。
蛇行する橋本川と直線の街路とが対照的。

（K－14）

南明寺観音堂からの眺望

阿武川は、橋本川（手前）と松本川に分流して日本海に注ぐ。

（H－18）

大照院裏の面影山中からの眺望

蛇行する橋本川。

（D－16）

玉江浦の裏山からの眺望

橋本川沿いの松や屋敷地の樹林が目を引く。

（A－13）

玉江浦の裏山からの眺望

指月山から堀内一帯を眼下に眺めることができる。

（A－13）

西の浜から見た指月山

指月山は、温暖帯照葉樹の成熟森林ということで、国指定天然記念物。
山の麓は萩城跡で、国指定史跡。

（B−11）

西の浜

防風防砂のための松林が続く。

（B−11）

常盤橋上流（橋本川）

常盤島や平安古町の河岸端に松の老樹が見える。

（C−12）

玉江橋下流（橋本川）

平安古町の河岸端や常盤島の松の老樹、また川に接した屋敷が見える。

（D−14）

玉江橋上流(橋本川)

川に接した屋敷や松の老樹が見える。
川沿いの土塀やプロムナードは最近作られたもの。

（D−14）

橋本橋下流(橋本川)

藩の御殿跡地傍らの松の大木が目を引く。

（F−14）

橋本橋上流(橋本川)

川島地区の川土手には桜の並木があり、生け垣も多い。

（F−14）

阿武川が分流する太鼓湾

手前が松本川。
かつては松本川から藍場川（大溝）へ出入りする樋門が設けられていた。

（H−16）

中津江橋上流
（松本川）

川島地区の川土手には桜の並木があり、生け垣も多い。

（H－15）

中津江橋下流
（松本川）

（H－15）

松陰大橋上流
（松本川）

（H－13）

松陰大橋下流
（松本川）

橋本橋のたもと、扇の芝（扇の地紙状の土地）の樹林が目を引く。

（H－13）

松本橋上流（松本川）

（H－12）

松本橋下流（松本川）

土原地区の川に接した屋敷地の樹林が目を引く。

（H－12）

萩橋上流（松本川）

土原地区の川に接した屋敷地の樹林が目を引く。

（H－11）

雁島橋下流（松本橋）

春先、松本川河口のこの辺りでは四つ手網によるシロウオ漁が行われる。

（G－10）

松本川河口付近（鶴江台より）

浜崎市場があり、製氷所が見える。

（F－9）

鶴江台から見た浜崎商港、菊ケ浜

手前が松本川の河口。

（F－9）

菊ケ浜の砂浜と松林

（D－11）

菊ケ浜から見た指月山

指月山は温暖帯照葉樹の成熟森林ということで、国指定天然記念物。

（D－11）

堀内地区

（　）内のローマ字と数字は写真の撮影位置を示します。

菊ケ浜から見た指月山

山の麓に萩城、別名指月城と呼ばれる平山城があった。
本丸、二の丸、三の丸（堀の内）の一部が国指定史跡。

（E－11）

指月城趾

現在、指月公園となっている。
築城工事着手は慶長9年(1604)、完成は慶長13年(1608)。

（C－11）

内堀と天守台

幕末の文久3年(1863)に藩庁は山口市に移り、五層の天守閣をもつ萩城は、明治維新後の明治7年（1874）に解体された。

（C－11）

内堀と城の石垣

本丸内には天守閣の礎石が残っているが、現存する建物は無い。

（C－11）

萩城二の丸大手門（南門）の桝形

巨大な花崗岩を用いて厳重に築かれた城門の跡。

（C－11）

萩城二の丸東側の海に面した高い城壁

潮入門の跡地近くで、現在は砂浜に接している。

（C－11）

萩城二の丸東側の海に面した城壁と銃眼

江戸時代、海に面して防御の拠点となる櫓が何カ所も設けてあったとされる。

（C－11）

旧厚狭毛利家萩屋敷長屋

国指定重要文化財。
萩城大手門の南100mの要所に位置する。
毛利氏一門の広大な萩屋敷の一部。

（C－11）

旧益田家物見矢倉と浜の町（の通り）

外堀の内側の萩城三の丸は、現在堀内と呼ばれる。
江戸時代は、藩の諸役所や毛利氏一門や重臣たちの邸宅が建ち並んでいた。

（D—11）

旧繁澤家長屋門と旧益田家物見矢倉

物見矢倉は萩藩永代家老益田家の屋敷の一部。重臣の屋敷地割が良く残る堀内地区の77.4haが、国の重要伝統的建造物群保存地区。

（D—11）

旧繁澤家長屋門

堀内地区内には、重臣の屋敷の一部や広大な屋敷地の地割を示す土塀などが良く残っている。

（D—11）

旧周布家長屋門と浜の町（の通り）

浜の町（の通り）に残る重臣の屋敷の一部。重厚な本瓦葺き。

（D—11）

浜の町（の通り）

北の総門（萩城三の丸へ出入りする門）から本丸に通じる街路。

（C—11）

後町（の通り）

萩城三の丸内の東西方向の街路で、電線が地下埋設されている。

（C—11）

問田益田氏旧宅土塀

重臣の屋敷地が広大なため、長い土塀（総延長231.7m）が見られる。付近の高等学校敷地は、屋敷2軒分。

（D—11）

屋敷型家屋

現在も堀内地区では、周囲に土塀や生け垣を巡らし、道路に面して長屋門や腕木門を設けた屋敷を多く見ることができる。

（D—12）

旧福原家萩屋敷門

萩藩永代家老福原家（石高約１万1300石余）萩上屋敷の腕木門形式の表門。
門は県指定有形文化財、屋敷地は国指定史跡。

（C－12）

橋本川の川中にある常盤島

松の老樹が川面に影を映す。

（C－12）

常盤橋上流(橋本川)、河畔の木々の緑

写真に見える旧川手御殿（藩主別邸）を始めとし、河畔には橋本川の眺望を活かした屋敷が建つ。

（C－12）

口羽家在宅表門

主家と門が江戸時代そのままの位置にあり、国指定重要文化財となっている。

（C－12）

堀内鍵曲（追廻し筋の通り）から見た口羽家表門

道路は未舗装。

（C－12）

堀内鍵曲（追廻し筋の通り）

見通しのきかない鍵形に曲がった街路。
城下の街路に良く見られる。

（C－12）

追廻し筋（の通り）の土塀、石塀、生け垣

（C－12）

追廻し筋（の通り）の土塀、石塀、生け垣

塀越しに夏蜜柑畑や屋敷の屋根を見ることができる。

（C－12）

三年坂筋（の通り）の旧児玉家長屋門

長屋門には出窓が設けられている。

（D－12）

旧児玉家長屋門の内側

（D－12）

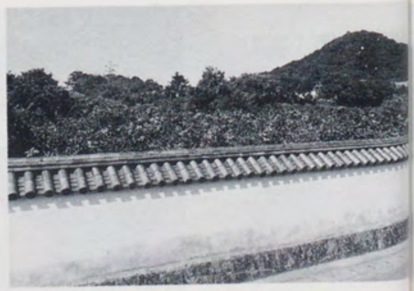
三年坂筋（の通り）の武家屋敷形家屋

街路に面し長屋、腕木門、土塀が連なり、その奥に主屋が建つ。

（D－12）

夏蜜柑畑

広大な武家屋敷は、明治時代に入り主が転出した後に、夏蜜柑畑に利用された。



（D－11）

草で覆われた外堀の北端付近

写真右側が三の丸（堀内）で、城内防御のための土塁が残っている。

（E－11）

三の丸（堀内）土塁と外堀

当初20間あった外堀の幅は、江戸時代の末には8間になっている。

（E－11）

新堀川にかかる平安橋

城内へは、北の総門、中の総門、そして平安橋たもとの平安古の総門から出入りした。

（D－12）

外堀発掘調査現場

萩城の城郭の一部である外堀を、史跡整備のために現在発掘調査している。

（E－11）

土塀越しに見える夏蜜柑

現在、堀内の夏蜜柑畑は宅地に造成される所が多くなっている。

（C－12）

土塀と石塀

漆喰仕上げの土塀、漆喰を塗らない（または剥落した）荒壁の土塀など、多様な土塀が見られる。

（D－11）

生け垣

建物や塀などの基礎の上に植えたものと、直接地面に植えたものとが見られる。

（D－11）

石材を切り出した時の矢跡の残る基礎石

萩城建設の初期に築かれたものの中には、花崗岩を用いたものが見られる。

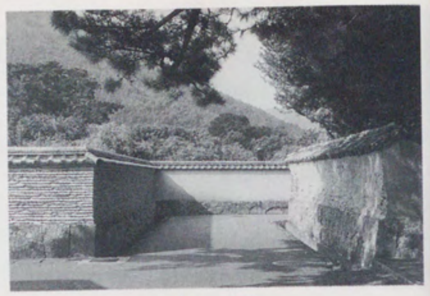
（D－11）

平安古町・河添地区

（　）内のローマ字と数字は
写真の撮影位置を示します。

鍵曲（かいまがり）

見通しがきかない鍵形に曲がった街路。
平安古町の一部は重要伝統的建造物群保存地区に選定。



（D－14）

鍵曲（かいまがり）の長屋と土塀

付近に毛利筑前下屋敷跡地があり、夏蜜柑栽培の開始とかかわり深い夏蜜柑畑がある。

（D－14）

鍵曲（かいまがり）

（D－14）

長屋門

街路に面して出窓が見られる。

（D－14）

平安古本町筋（の通り）の長屋門

平安古の総門（平安橋）から江向へと続く主要街路。

（D－13）

平安古本町筋（の通り）

生け垣、土塀、長屋、石塀などが連なる。

（E－13）

平安古本町筋（の通り）に直交する街路

土塀、生け垣、長屋などが連なる。

（D－14）

平安古本町筋（の通り）に平行する街路

田畑往還。

（E－13）

村田清風別宅長屋門

平安古本町筋(の通り)に平行する満行寺筋。

(D－13)

平安古本町筋（の通り）に連続する町屋型建造物

(D－13)

橋本川河畔の松並木

松枯れ等で少なくなったが平安古の松原と称される。

(D－13)

橋本川に接した屋敷

遊歩道や土塀が建設される以前は、屋敷の庭にハトバ（船着き場）などがあった。

(D－14)

河添勘場町(の通り)の生け垣

生け垣の内側は夏蜜柑畑。

(E－14)

河添中の町(の通り)の街路

道の両側は夏蜜柑畑。

(E－14)

河添中の町(の通り)の街路

土塀や生け垣で囲まれている夏蜜柑畑。

(E－14)

河添本町(の通り)に直交する街路

道の両側や行き詰まりの屋敷の庭木が目を引く。

(E－14)

生け垣に囲まれた屋敷や夏蜜柑畑

（D－14）

土塀の基礎の上に植えられた生け垣

河添御蔵前往還。

（D－14）

土塀に囲まれた夏蜜柑畑

河添御蔵前往還。

（D－14）

河添本町（の通り）に面した町屋

（E－14）

浜崎町・北古萩町

（　）内のローマ字と数字は
写真の撮影位置を示します。

浜崎本町(の通り)に沿って連続する町屋

浜崎町に限らず萩の町では、棟が道に平行で、棟に平行な側面から出入りする平入りの町屋が多い。

（Ｆ－10）

浜崎本町(の通り)に沿って連続する町屋

江戸時代から鉄道が開通する大正時代の末頃まで、浜崎町は物流の拠点だった。

（Ｆ－10）

浜崎本町(の通り)に沿って連続する町屋

蔀戸と格子が目を引く。

（Ｆ－10）

浜崎市場近くの町屋

板の蔀戸は磨き込まれ、伝統的な建物内部も大切に維持されている。

（Ｆ－10）

浜崎市場近くの町屋

（Ｆ－10）

浜崎新町の町屋

二階の高い町屋、家の前面の長大な梁、通りに面して建つ蔵などを見ることができる。

（Ｆ－10）

東浜崎町の町屋

吹き上げと呼ばれる本町の通りへ続く坂道。東浜崎町は漁人町（りょうどまち）とも呼ばれる。

（Ｆ－10）

藩の船を格納した大規模な御船倉

絵図によれば３棟の倉が建ち並び、前面は入り江になっていた。

（Ｆ－10）

住吉神社

現在の場所に勧請されたのが万治２年(1659)。８月初めの祭礼は萩の二大祭りの一つに数えられる。

（Ｆ－10）

大戸と蔀戸

道路に面した戸と柱は取り外しが可能で、家の前面を広く開放することができる。

（Ｆ－10）

中二階に設けられた虫籠窓

手摺りや出格子を設ける町屋もある。

（Ｆ－10）

座敷から見た庭

道路から奥まったところに小規模な中庭（坪庭ともいう）を設ける町屋が多い。

（Ｆ－10）

亨徳寺筋(の通り)に沿って連続する寺院

三角州内で最も標高の高い所に寺院が多く集まっている。

（Ｆ－11）

亨徳寺筋(の通り)に沿って連続する寺院

山門や本堂の大きく高い屋根が目を引く。
萩の寺院は規模の大きいものが多い。

（Ｆ－11）

墓　地

広大な墓地越しに、隣接する寺院が見える。

（Ｆ－11）

寺院の樹木

寺院の大屋根と松の老樹が目を引く。

（Ｆ－11）

寺院敷地を横断する道

短絡路として利用される。

（F－11）

規模の大きい山門

元禄期の建物で市指定文化財。

（F－11）

規模の大きい表門

多くの寺院の本堂は、重厚な本瓦葺きで棟が高い。

（F－11）

門前の町屋

通りが門に行き当たる。

（F－11）

今魚店町・榑屋町・春若町 恵美須町・塩屋町

（　）内のローマ字と数字は
写真の撮影位置を示します。

今魚店町の熊谷家住宅前の通り（西の町の通り）

周辺が萩市の歴史的景観保存地区に指定されている。

（Ｅ－11）

国指定重要文化財の熊谷家住宅

江戸時代から続く商家で、大規模な町屋形建造物。

（Ｅ－11）

菊ケ浜土塁

文久３年（1863)、外国船の攻撃に備えるために築かれたもの。

（Ｅ－11）

菊ケ浜土塁

工事に女性も携わったことから、女台場とも呼ばれている。

（Ｅ－11）

樽屋町花松垰（の通り）

萩の町では、町名や通りの名前に諸々の職業名が多く採用されている。

（Ｅ－11）

樽屋町に残る土塀と屋敷型建造物

外堀の外側にも、武家屋敷地があった。

（Ｅ－11）

瓦を積んで築いた土塀

樽屋町の武家屋敷跡地に残る。

（Ｅ－11）

樽屋町、塩屋町、北古萩町の境の辻

萩の町では狭い道が直交する四つ角が多い。

（Ｅ－11）

春若町の通りに面して連続する町屋

（Ｅ－11）

恵美須町筋（の通り）

通りに面した町屋や生け垣。

（Ｅ－12）

恵美須町筋（の通り）で目を引く生け垣

江戸時代二は町屋の地域だが、一時夏蜜柑畑になっていた。

（Ｅ－12）

恵美須町筋（の通り）の四つ角

角地には、入母屋と切り妻の建物が見られる。

（Ｅ－12）

呉服町·瓦町·南古萩町

（　）内のローマ字と数字は写真の撮影位置を示します。

江戸屋横町(の通り)

国指定史跡の木戸孝允旧宅前。
一帯は、国指定史跡の萩城城下町となっている。

(E－12)

江戸屋横町(の通り)青木旧宅前

一帯は、武家屋敷や町屋が軒を連ねていた城下町の面影を良く止めている。

(E－12)

伊勢屋横町(の通り)の土塀

通りの名前は、江戸時代に通りに面して所在した商家の名前にちなむ。

(E－12)

直交する街路

通称御成り道と伊勢屋横町の四つ角。

(E－12)

国指定重要文化財の菊屋家住宅

藩の御用達を勤めた豪商の規模の大きい町屋。17世紀の中頃に建てられたとされる。

(E－12)

通称御成道沿いの規模の大きい町屋

江戸時代には規模の大きい商家が軒を連ねていた。

(E－12)

菊屋横町(の通り)

菊屋家住宅の塗り込められた壁面や、ナマコ壁が目を引く。

(E－12)

菊屋横町(の通り)の土塀や板塀

側溝には切石が用いられている。

(E－12)

屋敷型建造物

（Ｅ－12）

土塀と生け垣に囲まれた夏蜜柑畑

（Ｅ－12）

瓦町の屋敷型建造物

塀越しに、良く手入れされた庭木が見える。

（Ｅ－12）

瓦町の屋敷型建造物

板塀越しに、良く手入れされた庭木が見える。

（Ｅ－12）

熊谷町・東田町・西田町 米屋町・今古萩町・下五間町 吉田町・古萩町

（　）内のローマ字と数字は
写真の撮影位置を示します。

熊谷町の通りに沿った町屋

浜崎町から田町へと続く商店街。
かつては、丈の高い二階建ての町屋が軒を連ねていたという。

（F－11）

熊谷町と浜崎町の境

角地には切り妻と入母屋の建物が見られる。

（F－11）

境町（の通り）

熊谷町と浜崎町の境の通り。
道に沿って町屋が連続する。

（F－11）

熊谷町の通りに沿った町屋

蔀戸や虫籠窓が見られる。

（F－11）

田町のアーケード街

昔からの商店街。

（F－12）

田町のアーケード街

アーケードの裏側に伝統的な町屋が見られる。

（F－12）

田町のアーケード街

昭和45年（1970）にアーケードは完成。

（F－12）

田町のアーケード街

アーケードに面した部分を改装した伝統的な町屋が見られる。

（F－12）

木製の看板

（F－12）

通りに対して垂直に掲げられた伝統的看板

ネズミ→ネツミ→熱見→体温計

（F－12）

トオリニワ（通り抜けできる土間）のある商店

かつては、家の前面を開け放して商品を見せる商店が多く見られた。

（F－12）

商店街の裏側

規模の大きい町屋の大屋根や蔵が見える。

（F－12）

西田町の通りに沿った町屋

伝統的町屋の前面を開け放つ。

（F－12）

巨大な梁

中間を柱で支えないため、前面を開放できる。萩の町屋商家に見られる特徴の一つ。

（F－12）

西田町の町屋と町屋の間の道

（F－12）

西田町と瓦町の境の通り

江戸時代には瀬戸物町（の通り）と呼ばれていた。萩産以外の陶磁器も使用されたと考えられる。

（F－12）

北米屋町（の通り）の町屋

比較的に棟や軒の高くない町屋が連続する。通りの行き詰まりは寺院。

（F—12）

南米屋町（の通り）の町屋

伝統的な町屋が連続する通りで、歴史的景観が良く伝えられている。

（F—12）

南米屋町（の通り）の連続する町屋

（F—12）

米屋町の通りと直交する通り

通りに面した奥行きの深い町屋の構成が良く分かる。
平入りの建物の奥（写真手前）に庭や蔵がある。

（F—12）

吉田町の通りのアーケード

車道と歩道が区別され、歩道の上には屋根を設ける。

（G—12）

吉田町の通りに面した醤油蔵

都市であった萩市には、昔から多くの醤油醸造所がある。

（G—11）

国指定重要文化財の常念寺表門

吉田町の通りと平行する通りに面する。
規模の大きい本堂の大屋根も目を引く。

（F—12）

五間町の通りと直交する通り

角地の町屋では、家の側面にも窓や勝手口を設ける。

（F—12）

今古萩町の造り酒屋の酒蔵

町中の規模の大きい建物。

（F－11）

今古萩町の寺院の庭木

クロガネモチの木は庭木として多く植えられている。

（F－11）

古萩町の町屋

軒を支える持ち送り、虫籠窓、通りに対して垂直に掲げられた看板などが目を引く。

（G－12）

長屋形式の建物

古萩町の藩施設跡地に接して連続する。

（G－11）

江向地区・橋本町・御許町

（　）内のローマ字と数字は
写真の撮影位置を示します。

江向八丁（の通り）

見通しのきく直線の街路。
旧往還道（写真手前、現在は国道）と直交する。

（F－14）

江向八丁(の通り)沿いの長屋門

通りに沿って、江戸時代には藩の施設（御殿）もあり、周辺は武家屋敷だった。

（F－14）

江向八丁(の通り)沿いの長屋、土塀、板塀

かつては、通りに沿って土塀が連続していたという。

（F－14）

武家屋敷地の名残

長屋、門、土塀、生け垣等が連続する。
江向八丁と直交する若松屋横町筋（の通り）。

（F－14）

橋本川の川土手の松の大木

江向地区の藩施設跡地の樹木。

（F－14）

江向地区の水田そばの長屋門

江向では、武家屋敷地と農地が接している。

（F－13）

江向若松屋筋(の通り)の長屋と板塀

（F－13）

江向若松屋筋(の通り)の長屋型式の建物

改造されているが、現在でも随所で武家屋敷地の名残を見ることができる。

（F－13）

明倫小学校敷地内の松

広大な藩校明倫館の跡地。
現在も敷地内に藩校施設が残る。

（F－13）

有備館（他国修行者引請剣槍術場）と観徳門

雑賀下り筋（の通り）に面した藩校施設。
この有備館や、敷地内に残る水練池は国指定史跡。

（F－13）

明倫小学校校舎

旧藩校敷地内に建てられた小学校。
昭和10年（1935）建築、国の登録文化財。

（F－13）

藍場川沿いの屋敷型建造物

かつてはこの辺りまで、川舟が薪炭などを積んで入ってきていた。

（F－14）

橋本町の旧往還道（現在は国道）

道路が拡幅される以前は、伝統的な町屋が軒を並べる商店街でもあった。

（F－14）

橋本町の旧往還道に沿った町屋

漆喰を塗り込めた壁や軒、板塀越しの庭木などが目を引く。

（F－14）

橋本町の旧往還道に沿った町屋

（F－14）

見通しのきく街路

橋本町で旧往還道と直交する川島八丁（の通り、手前）と江向八丁（の通り）。

（F－14）

橋本町で旧往還道と交わる藍場川

一材で造られた長い石橋。

（F－14）

橋本小橋付近の藍場川と町屋

橋本川に架けられた橋本橋に対し、近くの藍場川に架けられた橋を橋本小橋と呼んだ。

（F－14）

御許町の旧往還道に沿った町屋

（F－13）

御許町の旧往還道に沿った町屋

（F－13）

土　原　地　区

（　）内のローマ字と数字は
写真の撮影位置を示します。

奥平家長屋門とその前の通り

かつて土原地区には、武家屋敷が連なっていたため、現在も屋敷型建造物が多く見られる。

（H－12）

屋敷型建造物

レンガ塀と腕木門が目を引く。

（H－12）

小川家長屋門とその前の通り

出格子窓や通りに面したささら子下見板張り壁が目を引く。

（H－12）

目を引く生け垣や庭木の緑

通りの行き詰まりに屋敷地の門が見える。

（H－11）

前原一誠旧宅付近

周囲を生け垣で囲う屋敷地が多い。

（H－11）

生け垣越しに見える庭木や屋敷の一部

外から主屋が見えない程の規模の大きい屋敷もある。

（H－11）

対岸から見た松本川に接した屋敷

眺望を活かす屋敷取りとなっている。
屋敷地から川へと降りる石の階段も設けられている。

（H－12）

対岸から見た松本川に接した屋敷

庭木や樹林などの緑が目を引く。

（H－12）

弘法寺境内の松

（G－11）

弘法寺境内の松

（G－11）

ハス田（蓮根畑）

土原の低湿な場所では、萩の特産の一つであるハス（蓮根）が盛んに栽培されていた。

（G－13）

ハス田

かつて土原には広い水田もあり、農業を営む家も少なくなかった。

（G－13）

川　島　地　区

（　）内のローマ字と数字は写真の撮影位置を示します。

橋本川の川土手の桜並木と生け垣

桜は明治年間に植えられた。

（G－14）

橋本川の川土手の桜並木と生け垣

生け垣にはイスノキやマキが多く用いられる。

（H－15）

川土手から屋敷へと続く生け垣

屋敷地より面する道路が高いため、石段で出入りする。

（G－14）

川土手から屋敷へと続く生け垣

（H－14）

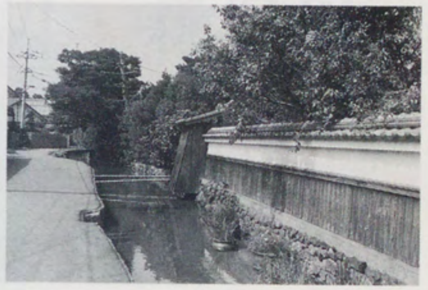
良く手入れされた生け垣

生け垣の内側は夏蜜柑畑。

（H－15）

藍場川（川島では大溝）沿いの景観

石橋やハトバ（水汲みや洗い物をする石段、板囲いもあり）が見られる。



（H－15）

小橋筋（の通り）に面した屋敷型建造物

長屋と門の道路を隔てた対面は農地。

（G－14）

小橋筋（の通り）に面した屋敷型建造物

（G－14）

小橋筋（の通り）と接して流れる藍場川

（G－14）

クロガネモチの大木

小橋筋（の通り）の屋敷地に見られる庭木。

（G－14）

住宅と水田

かつて川島地区では、農業を営む家が少なくなかった。
農地は造成され宅地に変わりつつある。

（H－14）

少なくなったハス田

低湿な三角州内ではハス（蓮根）が多く生産された。

（H－14）

藍場川・新堀川

（　）内のローマ字と数字は
写真の撮影位置を示します。

藍場川に面した旧湯川家住宅

川島樋の口近くの上流部に位置する。
藍場川は上流の川島地区では大溝と呼ばれた。

（H－15）

旧湯川家住宅

藍場川は江戸時代の中期に開削された。
川島樋の口から平安古の新堀川合流地まで約2.5km。

（H－15）

藍場川に架かる石橋

川舟の通航のために道路面より高くなっている。
かつては松本川から樋門を経て川舟が入って来ていた。

（H－15）

旧湯川家住宅内のハトバ

水を汲んだり洗い物をする場所をハトバと呼ぶ。
生活用水、農業用水、防火用水として川の水を利用。

（H－15）

藍場川に面した桂太郎旧宅の庭園

座敷からの眺め。
川の水を引き込んだ流水式池泉庭園。

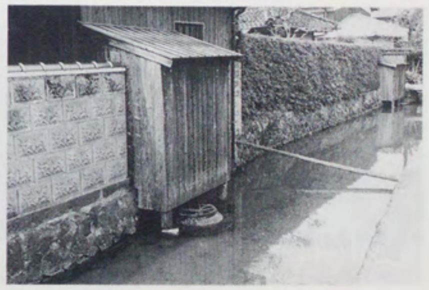
（H－15）

川島地区の藍場川沿いの景観

（H－15）

板囲いのあるハトバ

藍場川沿いには、水汲みや洗い物のために水辺へ降りる石段が多く設けられている。



（G－14）

川島地区の藍場川沿いの景観

藍場川を歌い込んだ歌碑。

（G－14）

川島小橋筋（の通り）に沿って流れる藍場川

薪炭などを運んできた川舟が、この辺りに舟を着けて積み荷を下ろし、町中を売り歩いていたという。

（G－14）

川島小橋筋（の通り）

板塀と塀越しの庭木が目を引く。
かつて、近くの病院まで急病人を川舟で搬送していたという。

（G－14）

御許町で見られる樋門

農業用水の取水のために設けられたもの。

（F－14）

江向地区の屋敷地裏を流れる藍場川

景観を楽しむための張り出しの歩道もある。

（F－14）

藍場川沿いの屋敷地

連続した石垣、道路より高く架けられた石橋、庭木などが目を引く。江向地区。

（F－14）

藍場川沿いの屋敷地

石橋をわたり屋敷に出入りする。

（F－14）

江向地区の藍場川沿いの通り

生け垣が連続する。

（F－13）

屋敷地裏を流れる藍場川

江向地区。

（F－13）

藍場筋（の通り）

江戸時代、この通りに染料の藍玉を製造する藍場があったため藍場筋と称した。

（F－13）

藍玉座跡地と藍場川の舟まわし

この地に藍玉の製造所があった。
川幅の広いところが舟を転回させる舟まわし。

（F－13）

石屋町近くの藍場川

舟を着けて荷物の積み下ろしをするハトバが見える。
平安古町。

（D－12）

石屋町の通りと交わる藍場川

新堀川との合流地近く。
平安古町。

（D－12）

新堀川の橋本川への出入り口付近

新堀川は萩城の外堀を兼ねる。
川の両側の石垣や樹木が目を引く。

（D－12）

新堀川に架かる平安橋

江戸時代には、城内に出入りする門の一つがこの橋のたもとにあった。

（D－12）

新堀川沿いの屋敷

屋敷地から川へと降りる石の階段。
堀内地区。

（D－12）

新堀川沿いの景観

写真左手が堀内地区、右手が平安古町。

（D－12）

江向地区と瓦町の境を流れる新堀川

かつて川沿いの病院まで、舟を利用して病人を搬送していたという。

（Ｅ－12）

東浜崎町の浮島橋付近の新堀川

かつて近くには、藩の施設（御浜御殿、御用屋敷、救米蔵など）があった。

（Ｇ－11）

新堀川の松本川への出入り口近く

東浜崎町。

（Ｇ－10）

新堀川の松本川への出入り口近く

東浜崎町。

（Ｇ－10）

あとがき

一、　この小冊子をまとめるにあたり、梶本祥子氏の『歴史的都市における景観要素の把握に関する研究－萩を対象として－』という論文を参考にしました。梶本氏は、萩の町を丹念に踏査して景観要素を抽出記録し、その特徴について分析を加え、更により良い住環境形成の可能性について言及されています。この度は、梶本氏が作成された景観要素分布図等を本小冊子に掲載したい旨お願いしたところ、快くご承諾下さいました。記して感謝申し上げます。

一、　この小冊子をまとめるにあたり、九州芸術工科大学の宮本雅明教授と、同じく西山徳明助教授に様々なご助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

一、　この小冊子の執筆、小冊子中の写真撮影、並びに編集は、萩市郷土博物館の清水満幸が担当しました。

一、　この小冊子は、日本芸術文化振興会の助成を受けて作成しました。

芸術文化振興基金助成事業

「萩」再発見

平成11年（1999）10月20日発行
発 行：萩市教育委員会
萩市江向510
編 集：萩市郷土博物館
萩市江向525－4
印 刷：山田プロ
萩市平安古町150－3

景観要素の分布図

（梶本 祥子氏 作成の図を加工）